

会 議 録

名 称	北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会
議 題	門司港地区
開催日時	平成26年12月9日（火）
開催場所	北九州市役所 15階 特別会議室B
出席者	<p>北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会 構成員</p> <p>座長 寺町 賢一（九州工業大学大学院 工学研究院 建設社会工学研究系 准教授）</p> <p>牛房 義明（北九州市立大学 経済学部 経済学科 准教授）</p> <p>東 恭子（第10期 北九州ミズ21委員会 委員）</p> <p>横田きみよ（コンセプトピディア 代表）</p> <p>事後評価担当（事業課）</p> <p>産業経済局 門司港レトロ課</p> <p>検討会事務局</p> <p>建築都市局 都市計画課</p>
議事内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会の挨拶 2 座長、構成員の紹介 3 事後評価制度の概要説明 4 議 事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 当該地区について説明 「まちづくりの経緯説明」「事後評価手続き等」「今後のまちづくり」について (2) 事後評価手続き等にかかる検討 (3) 今後のまちづくりについて検討 5 事後評価検討会後のスケジュール 6 報告事項 7 閉会の挨拶
構成員の 主なご意見	<p>○事業課より、当該地区のまちづくりの経緯、事後評価手続き等、今後のまちづくりについて一括説明</p> <p>○事後評価手続き等にかかる検討 (成果の評価について)</p> <p>寺町 座長</p> <p>指標2の目標達成度は、「△」としているが、目標値の49.3%に対して、確定値は29.6%であり、何%を基準に「△」、「×」と考えるのか。</p> <p>事業課</p> <p>評価値が目標値には達していないものの、近年（モニタリング時）の傾向よりは改善していると認められるので、「△」としている。 また、目標値の5割に満たない場合は、「×」と考えられる。</p>

牛房 構成員

指標3の回遊率が、平成23年度のモニタリング時の45.4%から、平成26年度に27.5%に下がっている理由を教えてください。

事業課

平成23年度のモニタリング時は、3月のイベント開催時に行ったため、旧市街地からレトロ地区への回遊率が高くなった。今回の平成26年の調査時は、イベントを開催してない時に行ったため低くなった。

横田 構成員

目標3の「市民が集う拠点の整備や市民活動の支援により、更なる市民活動の活性化を進める」の指標として、指標1「観光入込客数」を指標としているが、目標と指標のギャップを感じる。

門司港は、市民活動が盛んなので、イベント数、参加団体数、イベントへの来場者数の変化などを指標としても良かったのではと感じた。

事業課

門司港地区については、イベントを年間300近く開催しており、これは最近変わっていないので、入込数を指標とした。今後ご指摘の点を、勉強、検討していきたい。

(実施過程の評価について)

牛房 構成員

住民参加プロセスの実施状況で、昭和レトロ館において、ワークショップ等の社会実験を行ったということであるが、もう少し具体的に記述した方がよいと思う。

また、添付様式2-参考記述の定量的に表現でない定性的な効果発現状況にも、ワークショップの回数、内容など具体的に記述すべきと思う。

事業課

ご指摘いただいた部分について、再度精査をして、具体的に記述する。

(効果発現要因の整理について)

寺町 座長

添付様式4-③の数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理で、レトロ観光列車駅周辺整備と周遊バス運行支援の両方が「△」となっているが、現在も運行されているものと、途中で運行を中止したものを同じ「△」というのは、やや疑問がある。

事業課

「△」は、数値目標を達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われるもので、周遊バス運行支援は、採算性等により25年度より廃止したが、少しは貢献したと考えるので、「△」とした。

(事後評価原案の公表について)

横田 構成員

ホームページに掲載している事後評価の記載資料は、分かりづらいと思う。

東 構成員

北九州市のホームページは、わかりづらいので、事後評価原案が、検索してすぐに出てくるようにできればと思う。

横田 構成員

門司港は、住民参加の積極的な地域なので、事後評価の公表の場を、各団体の意見交換の場としたらどうかと思う。

東 構成員

添付様式7の事後評価原案の公表の説明会・ワークショップのところが、空欄になっているが、今後は、まちづくり団体のミーティングの際に、意見を聞いて掲載すると良いのではと思う。

○今後のまちづくりについて検討

(今後のまちづくり方策について)

寺町 座長

添付様式5-③今後のまちづくり方策のB欄改善策に何も記述がないが、達成できなかった指標があるので、改善策が出てきてもよいと思う。

牛房 構成員

添付様式5-②の残された未解決の課題として、長時間滞在が一つの課題であり、宿泊施設の充実も必要と思う。

東 構成員

門司港に泊まりたい、この門司港の夜を味わうために、泊まらないといけないという動機づけが必要であると思う。そのために、夜の景観のPRや魅力をつくるための素地づくりが必要であると思う。

横田 構成員

和布刈には、説明を聞くと観光資源があるが、わかりづらいので、滞在時間の長時間化のため、改善策として、サインの整備をすべきと思う。

事業課

ご指摘の通り、長時間滞在を促進するためにも、和布刈地区の整備が、レトロ地区の今後の課題であると考えている。

現在は、環境整備を行っている段階であり、民間活力を導入していくための条件整備を行っていききたい。

また、併せて、宿泊施設の充実も行っていきたいと考えている。

寺町 座長

それでは、色々なご意見を頂きましたが、門司港地区の事後評価手続きについて、適切に実行されたということによろしいでしょうか。

構成員一同： 了解

寺町 座長

次に、今後のまちづくり方策について、妥当であると認めてよろしいでしょうか。

構成員一同： 了解

寺町 座長

ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして門司港地区の議事を終了致します。

事業課

ありがとうございました。

会 議 録

名 称	北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会
議 題	フォローアップ報告（H25年度完了地区）
開催日時	平成26年12月9日（火）
開催場所	北九州市役所 15階 特別会議室B
出席者	北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会 構成員 座長 寺町 賢一（九州工業大学大学院 工学研究院 建設社会工学研究系 准教授） 牛房 義明（北九州市立大学 経済学部 経済学科 准教授） 東 恭子（第10期 北九州ミズ21委員会 委員） 横田きみよ（コンセプトピディア 代表） フォローアップ担当課 建築都市局 都心・副都心開発室（小倉都心地区） 検討会事務局 建築都市局都市計画課
フォローアップ報告	<p>○フォローアップ報告について （事務局及び担当課より説明）</p> <p>昨年に事後評価を実施した地区のフォローアップについて、報告させていただきます。</p> <p>フォローアップにつきましては、事後評価の際に、推計値で評価を行っていたものについて、実測値が確定した時点で、確定値に置き換え、事後評価の確認を行うものです。</p> <p>今回の報告対象は、平成25年度完了の小倉都心地区の1地区でございます。</p> <p>それでは、報告に移ります。</p> <p>当事業課から、主に、A3横の概要（参考資料）で、指標の状況を説明させていただきます。あわせて事後評価以降の取り組みについて紹介させていただきます。それでは、小倉都心地区担当の都心・副都心開発室からご説明をお願いします。</p> <p>【小倉都心地区】</p> <p>小倉都心地区でございます。</p> <p>お手元のA3横の概要資料をご覧ください。</p> <p>小倉都心地区では、表左の目標に対し、5つの指標を立てて、事後評価を行いました。これらすべての指標で、推計値を使っていたため、今回、確定値（実測値）に置き換え、評価の確認を行ったものです。</p> <p>指標1、商店街エリアを中心とした歩行者通行量は、目標値 177,000 人/日に対し、評価時点の推計値 153,000 人/日が、確定値 143,000 人/日に、</p> <p>指標2、主要な歴史・文化・コンベンション施設の年間来場者数は、目標値 197 万人/年に対し、評価時点の推計値 176.5 万人/年が、確定値 189.7 万人/年に、</p> <p>指標3、「道の歩きやすさ」に対する評価は、目標値 53.5%に対し、評価時点の推計値 55.4%が、確定値 35.7%に、</p>

指標 4、「夜の安全度」に対する評価は、目標値 16.0%に対し、評価時点の推計値 13.4%が、確定値 13.2%に、

指標 5、小倉都心部における JR・モノレール駅の年間利用者数は、目標値 4,170 万人/年に対し、評価時点の推計値 4,128 万人/年が、確定値 4,156 万人/年となっています。

また、その他の指標 1、高頻度来訪者に対する評価は、評価値 61.7%が、確定値 52.3%に、

その他の指標 2、居住人口に対する評価は、評価値 33,300 人が、確定値 32,403 人となっています。

指標 1 では、歩行者通行量調査 3 日間のうち 1 日の天候が悪化したことが通行量に影響したものと思われ、確定値が評価時点の推計値を下回ったと考えています。しかしながら、通行量は取組み前の減少傾向から増加に転じており、事後評価時に説明させていただいたとおり、今後のまちづくりの方向性に従い、取組みを推進したいと考えています。

指標 2 については、確定値はわずかに目標値には及ばなかったもの取組み前の減少傾向から増加に転じ、推計値を大きく上回っています。引続き、今後のまちづくりの方向性に従い、取組みを推進したいと考えています。

また、参考指標 1 の高頻度来訪者については、多少のバラつきはあるものの、確定値は取組み前の数値を上回っており、全体として増加傾向となっています。

指標 4 では、確定値が評価時点の推計値を若干下回っているものの、今後のまちづくりの方向性は昨年と変わらないと考えています。治安イメージの改善に向けた LED 道路照明や防犯カメラの新設と合わせ、警察や地域と連携した防犯パトロールの実施や放置自転車の一斉撤去など、ハード・ソフトの両面からの取組みにより安全安心やイメージの向上を図って参ります。

参考指標 2 の居住人口については、平成 20 年度以降、順調に増加しており、5 年間で約 13%増加しています。「西小倉駅前第一地区市街地再開発事業」(住宅整備 195 戸)に加え、大手町地区でのマンション建設の増加が要因と考えており、夜間人口は着実に増加しています。

次に、指標 3 では、確定値が評価時点の推計値、目標値、従前値を下回る結果となり、目標達成度を評価時点の○から×に変更しています。昨年度の評価時点の推計値算出では、平成 24 年度のデータを特異値として取扱い、除外して判定しておりましたが、平成 25 年度の調査結果により、2 年続けて「歩きやすい」という回答が減少しています。

A 3「概要(参考資料)」の中 CHECK 欄のグラフ中に、青線で「歩きやすい」と評価する人の推移と合わせて、緑線で「歩きにくい」と評価する人の推移を示していますが、この「歩きにくい」と評価する人は平成 19 年度から約 5%減少しています。

「歩きにくい」と評価する人が減少した理由としては、平成 16 年度からまちづ

くり交付金を活用し、小倉都心における道路整備を行ってきた結果、街なかの主要な道路整備が概ね完了し歩行空間の拡充を図られたことによるものと考えており、「道の歩きやすさ」に対する来訪者の満足度は上がっていると考えています。

したがって、改善策については変更せず、引続き、今後のまちづくりの方向性に従い、取組みを推進したいと考えています。

指標5については、確定値はわずかに目標値には及ばなかったもの取組み前の減少傾向から増加に転じ、推計値を大きく上回っています。引続き、今後のまちづくりの方向性に従い、取組みを推進したいと考えています。

また、小倉都心地区については、今年6月に「新幹線口エリアで生み出したにぎわいを都心全体のにぎわいに」をコンセプトとした「都心集客アクションプラン」を策定し、新幹線口エリアでの集客300万人を目指し、「人がさらに集まる仕掛け」や「滞在時間を延ばす仕掛け」など賑わい創出に向けた取組みを推進しています。

例えば、新幹線口地区のあさの汐風公園では、11月には食のイベント「北九州フードフェスティバル」、12月は先週末の「北九州ポップカルチャーフェスティバル」など民間とも連携した大規模なイベントを開催し、多くの来訪者によって新たな賑わいを創出しています。

また、JR小倉駅構内の南北公共連絡通路では、11月からライトアップされた九州最大級のクリスマスツリーを設置して新たな魅力を創出するとともに、小倉城口ペDESTリアンデッキや紫川周辺のイルミネーションによるライトアップにより、来訪者の回遊促進を図っています。

今後も、都市再生整備計画（小倉都心地区）第3期による都市基盤整備と合わせ、「都心集客アクションプラン」の活性化に向けた取組みや、平成29年の北九州スタジアムのオープンを契機とした賑わい創出の取組みなどとの連携により、小倉都心のさらなる賑わい創出や魅力の向上を図って参ります。

構成員の
主なご意見

○フォローアップ報告に対する意見

【小倉都心地区について】

（フォローアップ報告書の目標達成度と総合所見について）

寺町座長

指標3の歩きやすさについて、下がっていることについては事実として仕方がないと思いますが、これに対するフォローアップ報告書の目標達成度が、○から×に2段階いっきに下がっているのに、総合所見のところは、「一定の評価は得られている」としており、指標4は同じく目標達成度は×になっているのに、「達成することができなかった」となっています。同じ達成度なのに、一方では「評価は得られている」、一方で「達成できなかった」との所見になっていますが、見解はいかがですか。

事業課

この指標については、アンケート調査結果を採用しておりますが、昨年度の評価委員会でも、構成員からご意見があったように、設問の設定などに改善の余地があり、その結果がこの評価に表れているのではないかと考えています。

「歩きやすい」という意見は減っていますが、中間の意見である「普通」という意見が増えており、「普通」と「歩きやすい」を足した意見は年々増加傾向にあります。

<p>す。さらに、「歩きにくい」という否定的な意見は減少傾向にあり、本来の趣旨からいきますと、目標に向けて改善傾向にあるという状況は現地では確認されていますが、目標指標の設定が、「歩きやすい」という、肯定的な意見だけを対象にしたために、数字が伸びず、×になっています。</p> <p>寺町座長 改善されているのですね。</p> <p>事業課 はい。</p> <p>寺町座長 分かりました。</p> <p>事業課 指標の設定の仕方、アンケート調査方法自体に改善の余地があったのではと考えています。 今回は設定した指標を評価で用いなければならなかったため、今後、何かの機会 のときに、違う指標の設定の仕方、工夫が必要と考えています。 座長の言われたとおり、評価が一気に○から×に変わったのに、所見では「よい」 と書いてあったり、一方で、同じ×なのに「達成できなかった」と書いてあったり するため、今後、何か機会があるときに指標の設定など工夫させていただきたいと 思います。</p> <p>事務局 ありがとうございました。 これで、フォローアップ報告を終わります。</p>
--